

「ふんどしの



キモチ」の 気持ち。

まほろば主人
宮下周平

「これは、イイ!!!」

自分にとって、衣服で感心したのは、生まれて初めてではないだろうか。

それは、ブランドでも、エスニックでもなく、ただの日本の禪（ふんどし）であった。

下着に、取り込まれるとは！
我ながら、ビックリである。

どこが、どう違うのかと問われれば、答えに窮するのだが、とにかく、イイのである。

履いて忘れるというか、そうか
といってピタリとか、そういう
でもない。

ともかくも、心地よいのだ!!

用を足すには、ことにイイ。そして、何だろう。風通しがイイのかな。血の巡りがイイのかな。締め付けがないと言えなく、そうかといってズレ落ちるということもない。甚だ好都合なのだ。

麻の流行が手伝ってか、まほろばでも今まで売っていたことは売っていた。だが、買ったはいいが、実は一度も履いたことがなく、タ

ンスの奥に眠っていた。

この「ふんどしのキモチ」との
出会いは、昨年の援農に來られた
石狩の藤原智子さんからの、プレ
ゼントだった。頂いたからには、
一度は履かねば失礼である。とこ
ろがあるので、履いてみて、言葉に
しづらいのだが、何とも言えない
感触なのだ。まさに、初体験。そ
れ以来、今までのパンツが履けな
くなった。

それは、藤原さんが、「GRACE
さくら」を主宰する施術師であり、
そのヒーリング効果が理由の一つ



かな、とも思った。要するに、た
だならぬ気配なのだ。

ある日、知友で茶人の原芳易さ
んが、この褌を履いて同じ感想を
抱いたことに、ひどく驚いてしまっ
たのだ。昔風の紐付きではなく、
今風パンツのような履きやすさも
手伝って、これから拡がるのでは
なからうか。

それで、もう一工夫、これを麻
布で作ったら、さらにどんな感じ
になるか、とお伝えした。さて、
どうなったかは、想像に難くない。



さてもさても、

私の褌の思い出
と言え、50年
前に遡る。

18歳で、奈良
の薬師寺に赴き、
橋本凝胤長老の

大乘院に起居を許された頃、長老
が昔ながらの紐褌を履かれていた
のにはビックリ、一種のカルチャー
ショックであった。日本の古典が、
お堂の佛様だけでなく、生活の中
に生きて居ることに魂消たのだっ
た。

またまた関西在住のその後、お
付き合いする知人の中に、忌部さ
んと三木さんがいらした。お二人
とも温厚なお人柄で、殊に90歳を
超える三木さんとは今なおお付き
合いしている。実は、お二人とも
阿波出身、古事記にも記された名
門で、あの大嘗祭鹿服（あらた
え）の麻生産の家柄の縁戚であつ
たことを後になって知った。これ
が、知られざる麻との縁の始まり



であつたが、半世紀を経て、ここ
に結実するとは、一入感慨深いも
のがある。

藤原さんに、麻生地での依頼を
し、ようやく完成して、まほろば
にて、そのデビューと相成った次
第。めでたし、めでたし。

そんなこんなで、この度、まほ
ろばでも扱うことになった「ふん
どしのキモチ」。

本当にキモチいい、「褌の気持」
である。

あなたも、今日からカラリと晴
れた気分良き毎日を過ごしましょ
うヨ！！！！

「ふんどしの キモチ」 —新発売—

NEW ITEM

はじめまして。「ふんどしのキモチ」
です。

何だかとても手がかって、やっ
と一人前にしてもらったのですが、
皆さまのお役に立てることを嬉しく
思います。

使われているヘンプ生地は、邪気
を寄せ付けず、抗菌作用があること
で知られ、古代からパワーに敬意を
表するほど優れた特性があります。
天皇陛下御即位後の大嘗祭での衣と
して、伊勢神宮の神札など神事にも
使われるヘンプ。その自然の香り、

グレースさくら

藤原
智子

肌触りは心身の癒しにも役立ちます。
皆さまと仲良くなれると嬉しいです。

さらし生地でオリジナル染めの3
枚セットは、ご家族やご友人とでシエ
アしたり、プレゼントとしてもどう
ぞ。

特に男性は、今まで選ばなかった
色を取り入れてみるのも、新たな発
見があるかもです。

お仕事で悩み、いつも眉間にシワ
を寄せているお父さん、育児でお疲
れのお母さん、色から出るエネルギー
で、それらのエネルギーを中和して
みませんか？

最初はボディーケア用として制作

以下、作り手からのお話です。

ヘンプ生地のふんどしパンツと、
さらし生地3色セット（紫、ピンク、
オレンジ）のふんどしパンツをご用
意させていただきました。

どうぞよろしくお願いいたしま
す。

元々、ボディーケアのサロン内で
細々と販売していたもので、股関節

痛の方が次々と来店されたのをきっ
かけに、ふんどしパンツを考案し、
ご提供していただきました。

股関節や腰回りを締め付けないこ
とで血行がよくなるので、腰痛、婦
人科疾患、睡眠障害などある方に喜
ばれています。

就寝用にと作りましたが、もう
ショーツは履けないと、昼間も履い
てくださっている方が少なくありま
せん。

どちらかというと、もの作りは得
意な方ではなく、むしろ買った方が
よいと思うくらいですが、そんな経
緯で作ったものが、今回思いが
けなく、まほろばさんとご縁をいた
だきましたので、新たにヘンプを使
用した「ふんどしのキモチ」を作ら
せていただきました。

ヘンプのパワーをぜひ感じていた
だき、皆さまのお役に立つならば嬉
しいです。

そしてさらしの方も、その心地よ
さ、色の持つパワーも感じていただ
きたいと思います。

自然法則に則って中性化

話は変わりますが、私のボディケ
アサロンのセッティングは、前の日
から準備するのではなく、ご予約の

く、ベッドの清潔感として感じる方
や、何か感覚やお部屋の空気感など
で分かる方などそれぞれで、その
方々の持つ感性にただただ驚いてい
ます。



コースや来店される方に合わせて毎
回時間をかけてセッティングさせて
いただいております。

お客様はセッティングの過程を知
らずに来店されるのですが、不思議
なものでそれを肌で感じる方が多

ふんどしパンツも、履いた途端
に感じる方が多く驚きます。物理的
な作成の工程としては、あらゆる段
階で中性に戻す仕組みを取り入れて
います。この中性に戻す仕組みは、
この世界が始まって以来変わること

の無い法則、そして今後どれほど年
月が経とうとも変わらない法則に基
づいています。例えば人間が自然を
汚せば、自然はそれを元に戻すため、
雨、風などで掃除をし始めます。救
えば救われる、奪えば奪われる、な
どの人の意識についても使われま
す。

すべては真ん中に戻される、この
世の揺るぎない法則です。

この仕組みは、テネモス国際環境
研究会で具現化、商品化されており、
ふんどし作成にはその中の「酵素水」
と「バンブー」を使用しております。

酵素水は、300種類以上の野
菜、果物、薬草を元に微生物発酵を
繰り返し、それによって湧き水と同
じ作用となり、結果的に無味無臭の
透明な酵素水となっています。この
酵素水は、強力に中性に戻す働きが
あるので、自然の産物としての人間
の私たちも、本当に心地よく感じ、
心身を整えることも期待出来る上、
なぜか皆さんの人生が変化していく
ところも驚きの現象です。もちろん
私の人生も。（個人差があります）



バンブーは、まず装置に空気を押し込み、特殊セラミックなどギッシリ詰まった部分を通して、その通る振動圧によつてきめ細かい「活性空気」となります。（エネルギーチャージ）

「ふんどしのキモチ」は、生地段階から中性に戻し、エネルギーチャージし、色染めの際も、その後の洗い上げにも酵素水とバンブーをふんだんに使用しています。

布を染める際に塩を入れるのですが、自然塩をマックス量入れ、染め上がりの発色をよりよくさせています。

最初の頃は少々色落ちしますので、単独でお洗濯することをお勧めします。

世の中になじめなかった子供時代

さて裁縫が得意でもなく作り始めた私について少しお話をさせていただくと、幼少の頃から毎晩おねしょ、夜泣き、この世のものはすべてコワイ、産まれたてのスズメの赤ちゃんの様に、ひ弱で泣いてばかりいて、これから先、同年代の子とはたして一緒に学んでいけるのか、両親は随分心配したようです。

父親がよく、「病院に連れていきなさい」と母親に言つたほど心身共に未発達で、話せずしつかり歩けず、食べず、意思表示せず、私も孫が3人いる年となりましたが、その頃母親はさぞや悩んだ事と思います。

案の定、勉強も運動も、親を喜ばせることなく、まず先生が何を話しているのか、聞き取る気持ちもなく、一体何を考えているのか、先生も「やれば出来る子」と当たり障り

ない判断となり、周りの大人はさじを投げる状態でした。

私自身も世の中が不可解で仕方なく、なぜ競争するために走るのか、

お遊戯を披露することに何の意味も感じず、好きでもない歌を歌い、時間通りに同じ行動をする、約束は平気で破られ、破った事さえ忘れられ

ている、それらにいちいち戸惑い、成長するどころかどんどん後ずさりし、消えてしまいたいと思う様な毎日でした。

ですが何も無いところから何かを生み出す能力はあったようで、学校の先生が授業以外のところで目を向けてくださいました。





壁に貼るもののデザイン、絵画をピックアップ（上手なわけではなく独創性）、お習字の先生からの課外授業（おかげで随分賞をいただきました）中学英語の先生が授業を始める前に単語の板書をする（筆記体が美しいとのこと）など。

高校の英語の先生から一冊の本を渡され、夏休み中に和訳してみても言われ、休み明けに提出すると大学

を推薦してくださいました。それらは誰かと競う必要が無かったので出来た様な気がします。

麻との出会い

今回のふんどしパンツも、映画の自主上映で何度もお世話になったお礼にお持ちし、その後「麻でふんどしをつくってみては？」と宮下会長との何気ない会話で、あとは作るも作らないも自由なところから始まったことで、有難いお話となりました。

麻の事など何も分からず始まり、予想もしなかった気が遠くなるほどたくさんさんの過程を乗り越える事は大変でしたが、麻に魅了され、やりがいのある作業でした。

いろいろ調べていき、ヘンプ以外無い！と心に決めたのもつかの間、ヘンプ生地がなかなか手に入らない事を知り愕然。やっと手に入れたヘンプ生地で、作って、履いて、寝てみて、4度も洗って風合いをみたり、アイロンを何度もかけて布目や強度を見て、繰り返し繰り返し試して、また別のヘンプを探す……。その



後も何度も壁が立ちふさがり、途方に暮れながらヘンプ生地と向き合う毎日、ある日包装を解いた瞬間、納得いく布が現れた時には、思わず「よく来てくれたね！」と、抱きしめて頬ずりしてしまいました。



探し当てたのは、熟練の職人が古くから使い慣れた機械でつくる飛びっきりの生地



自然のエネルギーを頂きながら制作

そしてそこからまた新たな壁へ突入することになるのですが、その後は材料や自然に協力してもらい、布や糸、染め粉に耳を傾け、近くの自然のままの防風林で土、木、草花に触れ、新緑の空気、鳥のさえずり、キツツキの木を叩く音、空、雲、太陽、みんなみんなエネルギーをもらい、心地よい時間の中でチャレンジを繰り返してきました。

ヘンプは、布になるまでに半分の繊維ロスが出るといいます。

ふんどしになるまでの工程でも繊維ロスがたくさん出ます。陰で協力してくれた材料たちにも心から感謝です。

これからも、よりお求めやすいものを提供させていただき、デザイナーなど少々変更があるかもしれません。何卒ご了承ください。

雪が降る前のお話から完成まで、半年の月日が流れ、やっと皆さまとお会いすることとなった「ふんどしのキモチ」。

ステキなご縁に感謝します。

素晴らしい世の中がもうすぐそこに来ていることを信じて。

このような機会を与えてくださった宮下会長、つたない話を上手に引き出してくださった大橋社長、原稿を作成していただきます島田専務、編集部 齋藤主任に、心より感謝いたします。



（後日談）

裁断する際に、私なりのこだわりがあります。

はたを織る際の進む方向、つまり前進していく方向に合わせて裁断しています。

進む方向を横切る様には裁断しません。

それは、履いていただく方々が人生をスムーズに進んで行かれる様にと願っているためです。

そして、ゴム部分の裁断は、もつと伸びしろが大きくなります様願って裁断しております。

伸びしろを断つようには裁断しておりません。

お洗濯について

ヘンプはその抗菌力により、あまりお洗濯しなくても臭わず汚れず、履き続けられるようですが、現在の私たちはそういうわけにはいかないかもしれません。

目立った汚れが無ければ、バケツのお湯に少々浸けておいて、その後すすいで絞るだけで大丈夫です。習慣で、洗剤を使いたい場合は自然の洗剤を薄めて浸けておくと良いと思います。

洗濯機の脱水は、回り始めてから10秒ほどで終了するのがよいと思います。（植物を脱水するイメージでやさしく）

自分が身に着けるものを大切に扱うと、自分自身も大切に扱う習慣が付くので、心身を健やかに過ごしていただくため、ぜひ皆さまに行っていただければと思います。

NEW ITEM



ふんどしのキモチ (さらし)

3枚入り 10,000円 (税込) のところ

店頭販売感謝価格 8,000円 (税込)

サイズ L、M

(S、LL はオーダーにて承ります)

ふんどしのキモチ (大麻)

1枚 10,000円 (税込) のところ

店頭販売感謝価格 8,000円 (税込)

サイズ L、M

(S、LL はオーダーにて承ります)

ヘンプ布の切れ端の処理について
ヘンプの生地は柔らかく、真つすぐに断裁しようとしても、どうしても曲がってしまいます。そのため、織の縦糸に対して斜めに断裁され、切れ端から縦糸がほつれやすくなります。この問題を解消するために、端から端まで縦糸が一本に通った状態になるまで、縦糸をほどこいて行きます。この処理を四辺すべてに行うため、ふんどしを縫い始めるまで、とても多くの手間がかかっています。

布の種類と肌感覚について

麻布にも種類があり、ヘンプ (大麻) のほか、リネン (亜麻) やラミー (苧麻) があります。「ふんどしのきもち」で使われているのは、このなかでも「ヘンプ (大麻)」です。

ふんどしをつくるにあたり日本製のヘンプ生地はとても貴重で、探すのに大変苦労しました。それでも5種類以上のヘンプ生地を取り寄せ、実際に肌馴染みを確認しました。不思議なことに、長く肌に触れていても「いつまでも他人行儀」な布があり、そんな布は、エネルギーを中性に戻す酵素液に何度つけても変わりませんでした。

たった一つだけ「仲良く寄り添ってくれる」生地が見つかりました。その布は、つくり手の想いや、熟練の職人が古くから使い慣れた機械だからこそ出せる味わいのようなものが感じられ、今回のふんどしづくりに採用することにしました。

あえて、ピシッとアイロンをかけることはしません。自然のままのヘンプの風合いを感じて頂きたいからです。